

# 弘経寺だより

発行所

寿亀山弘経寺

〒303-0041

常総市豊岡町甲1

Tel.0297-24-0895

シリーズ法然上人―ご入滅―

法然上人は建永の法難による四国配流の後、建暦二年(一二二一年)帰洛を許され、五年ぶりに京都の地をふまれた。

大谷の禪房(知恩院勢至堂)にて、門弟をはじめ念仏の同俗のあたたかい出迎えに、再会のよろこびを深くした。ご老齢と所労が重なって、上人は翌年の正月から病床につかれた。病床に伏した上人の口からは絶えず称名が聞かれ、枕辺に並ぶ門弟たちに念仏の励ましとなった。

老齢は日を追うて加わり、二三日から重態におちいった。高弟の一人源智は、念仏の肝要について一筆書きとどめていたきたいと、上人に懇願した。上人はこともなげに、

もろこし我が朝にもろもろの知

者達の沙汰し申さるる 観念の念にもあらず

第43号

また学問をして念のこころをさとりて申す念仏にもあらず

ただ往生極楽の為には南無阿弥陀仏と申して疑いなく往生するぞとおもいとりて申す他には別の仔細候はず

ただし三心四修と申すことの候は皆決定して南無阿弥陀仏にて往生するぞとおもううちにこもり候なり

この外に奥深きことを存せば二尊のあはわれみにはずれ本願にもれ候うべし

念仏を信ぜん人はたとひ一代の法をよくよく学すとも一文不知の愚鈍の身になして尼入道の無智のともがらに同じうして智者のふるまいをせずしてただ一向に念仏すべし

證の為に両手印をもってす

浄土宗の安心起行 この一紙に至極せり

源空が所存 この外に全く別義を存せず

滅後の邪義をふせがながために所存をしるしおわんぬ

建暦二年正月二十三日 大師在御判

《訳》私の説いてきたお念仏は、み仏の教えを深く学んだ中国や日本の高僧の方が理解して説かれてきた、静めた心でみ仏のお姿を想い描く観念の念仏ではありません。

また、み仏の教えを学びとることによって、お念仏の意味合いを深く理解した上でとなえる念仏でもありません。阿弥陀仏の極楽浄土へ往生を遂げるためには、ただひたすらに「南無阿弥陀仏」とおとなえするのです。一点の疑いもなく「必ず極楽浄土に往生するのだ」と思い定めて おとなえするほかには、別になにもありません。

ただし、お念仏をとなえる上では、三つの心構えと四つの態度が必要とされますが、それらさえもみなことごとく、「『南無阿弥陀仏』とおとなえして必ず往生するのだ」と思い定める中に、おのずとそなわってくるのです。

もし私が、このこと以外にお念仏の奥深い教えを知っていながら隠しているというのであれば、あらゆる衆生を救おうとするお釈迦さまや阿弥陀さまのお慈悲にそむくことになり、私自身、阿弥陀さまの本願の救いから漏れおちてしまうことになりましょう。

お念仏の教えを信じる者たちは、たとえお釈迦さまが生涯をかけてお説きになったみ教えをしっかり学んだとしても、自分はその一節さえも知らない愚か者と自省し、出家とは名ばかりでただ髪を下ろしただけの人が、仏の教えを学んでいくとも心の底からお念仏をとなえているように、決して智慧あるもののふりをせず、ただひたすらお念仏をとなえなさい。

以上のことを証明し、み仏にお誓いするために私の両手を印としてこの一紙に判を押します。

浄土宗における心の持ちようとしての行のありかたを、この一紙にすべて極めました。私、源空の胸の内には、これ以外に異なった理解は全くありません。私の滅後、間違った見

解が出てくるのを防ぐために、考えているところを記し終えました。建暦二年正月二十三日（法然上人の御手印）

と、生涯の主張を簡潔に言いつくした「一枚起請文」をしたためられた。かくして同月二五日、「光明遍照十方世界念仏衆生撰取不捨」の経文を称え、眠るがごとく、示寂された。ときまさに建暦二年（一一二二年）正月二五日、上人八〇歳であった。

### 坪井俊映猥下ご遷化

浄土門主、総本山知恩院第八七世門跡坪井俊映猥下が九月六日ご遷化されました。

猥下は全国各地へご巡教に行かれるなど、来年の「法然上人八百年大遠忌」に向けて精力的に尽力されていらつしやいました。

昨年五月に当山へご巡教いただいた際に、猥下に拝謁できましたことは、一生の思い出として心に刻み込まれました。このような有り難いご縁を頂いた後の突然のご遷化の報に接し、深い悲しみを禁じ得ません。謹んで哀悼の意を表します。

### 響流十方

平成二二年九月二五日（土）真つ赤な彼岸花に囲まれた弘経寺本堂において、「響流十方、秋の彼岸コソサート」が開催されました。森亮子さんによるパイプオルガンの調べにのつた小木曾実奈さんと高橋理恵さんの美しい歌声が、約一七〇名の聴衆を魅了しました。



### パネルシアター上演会

九月二十日 午前十時、淑徳短期大学と駒沢女子短期大学の学生さんたちによるパネルシアターの上演会が弘経寺本堂にて開催されま

した。学生さんたちの一生懸命のパネルシアターを観に、約二〇名の子供たちやご父兄が本堂に集つてくれました。「楽しかった！」「また来年も観たい！」という感想の言葉をくださった方々をお見送りしながら、スタッフ一同開催させていたただいた喜びをかみしめた、パネルシアター上演会でした。

### 飯田喜一さんNHKに出演

毎年美しい花を咲かせる彼岸花。今年は猛暑の影響で開花が一週間ほど遅れたにもかかわらず、過去最高ともいえるほど沢山の参拝客が真つ赤な彼岸花で彩られた弘経寺を訪れました。

「弘経寺の境内を彼岸花で真つ赤にしたい」という願いのもと三〇年をかけて花の世話をしてきた門前の飯田喜一さん。その三〇年の苦労がようやく実つて、弘経寺を訪れる沢山の方々に喜ばれています。

今年NHK水戸放送局から「是非弘経寺の彼岸花を撮影したい」との依頼がありました。「とうとう弘経寺の彼岸花はNHKに取り上げ

られるほどになったんだな…」と一人感慨に耽りながら、NHKのスタッフの方が飯田喜一さん取材している様子を眺めていました。

撮影された映像は九月三〇日の地上波デジタルの番組で放映されましたが、その次の日から「テレビを見てきた」という方もたくさん弘経寺を訪れてくださいました。また来年の秋彼岸の季節が楽しみになりました。

### 今月の写経会

十月二十三日（土）

昨年の十月から始まりました弘経寺の写経会。一周年を記念し、大本山増上寺から山崎東海上人（常総市広大寺副住職）をお招きして、お話とお導師をお勤めいただきます。是非ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

1:45	受	付
2:00	法	話
2:20	写	経
2:50	お	念
3:10	懇	談

会費 一〇〇〇円（高校生以下は五〇〇円）

携行品 小筆（受付でも販売します）